第40節の隠された歴史 - 第33回

エゼキエル書 第十四回

Jeff Pippenger
2026-10-27

創世記第4章と第5章では、カインの系譜とセツの系譜が対比されている.

善いレメクと悪いレメク

二つの系譜は、滅びる者と救われる者の対照を表しており、両系譜に属する子孫の中には、対照をなす両系譜において互いに対応する「子孫の象徴」となっている者もいる.カインは、罪を悔い改めることなく、ただ自らの境遇を嘆くだけの人々の一群を表している.

> そして、主は言われた.「お前は何をしたのか.お前の弟の血の声が、大地からわたしに向かって叫んでいる.今やお前は、お前の手から弟の血を受けようと口を開いた大地から、呪いを受ける.お前が大地を耕しても、大地はもはやお前にその力を与えない.お前は地上で逃亡者となり、放浪者となる.」カインは主に言った.「私の罰は重すぎて、負いきれません.ご覧ください.あなたは今日、私を地の面から追い払われました.私はあなたの御顔から隠される身となり、地上で逃亡者となり、放浪者となります.そして、私を見つける者はだれでも、私を殺すでしょう.」主は彼に言われた.「それゆえ、カインを殺す者はだれであれ、七倍の復讐を受ける.」そして主は、カインを見つける者がだれも彼を殺すことのないよう、カインにしるしを付けられた.カインは主の御前から立ち去り、エデンの東にあるノドの地に住んだ.創世記4:10-16.

カインは、善を行おうと努めることを拒んだために自ら招いた悲惨な境遇にばかり目を向ける、悔い改めない人々の一群を表している.

> しかし、カインとその供え物には目を留められなかった.そこでカインは激しく怒り、顔を伏せた.主はカインに言われた.「なぜ、あなたは怒っているのか.なぜ、顔を伏せているのか.あなたが正しく行うなら、受け入れられるではないか.しかし、正しく行わないなら、罪が戸口にうずくまっている.罪はあなたを慕い求めるが、あなたはそれを治めなければならない.」創世記4:5-7.

六つの死——三つのアルファと三つのオメガ

前回までの記事では、エノクが第一の天使を、レメクが第二の天使を、メトシェラが真夜中の叫びを、ノアが第三の天使を象徴することを確認した.セトの系統のレメクは、メトシェラが死んだ洪水の年の五年前に、七百七十七歳で死んだ.レメクの死の五年後にメトシェラが死んだのであり、したがって、この二人の死は、エゼキエルの妻の死と、その一年半（1.5年）後に起こった、小羊の妻であるエルサレムの死を予表している.

> また、私ヨハネは、聖なる都、新しいエルサレムが、夫のために着飾った花嫁のように整えられ、天の神のもとから降って来るのを見た.ヨハネの黙示録21:2.

エゼキエルの妻とラメクのアルファの死は、エルサレムとメトシェラのオメガの死と結びついており、ヨハネス・パレオロゴスの死と、その5年後にコンスタンティノープルの城壁上で起こったコンスタンティノス11世の死の予型となっていた.ラメクの系列は5年間を示しており、その終わりには動物が移動する7日間がある.東ローマの系列は5年間を表すと同時に、その全5年間に含まれる4年間をも表している.エゼキエルの系列は、2年間と1.5年間（1.5）の両方を表している.バビロンによるエルサレム破壊に関するエゼキエルの系列は、66年から70年に至るローマによるエルサレムの二度目の破壊と対応している.エルサレム破壊に関するローマの系列は、4年間と3年半の両方の期間を生み出す.これら四つの象徴的な系列はそれぞれ、その預言的証言の中で、一つではなく二つの象徴的な期間を生み出した.

レメク、ヨハネス・パレオロゴス、そしてエゼキエルの妻は、オメガの死をもって終わる期間のアルファの道標を表している.三つの系列のうち二つは、それぞれに対応する者の死をもって終わる包囲を表している.残る一つは、動物たちが箱舟に乗り込むことで終わる.オメガの対応項は、ノアの洪水を、エルサレムの破壊およびコンスタンティノープルの城壁の破壊と対応づけている.これら三つのオメガの象徴はすべて、間もなく発布される日曜休業令の時点における恩恵期間の終了を表している.

もちろん、ノアの箱舟という証しには包囲はなかったが、箱舟に入るための傾斜路は必要であったはずである.この搬入用の傾斜路が攻城用の傾斜路を予表していると考えるなら、死に関する三つの証しはいずれも包囲を示している.66年から70年に至る、ローマによるエルサレム滅亡の時系列では、66年にケスティウスによる包囲があり、70年にはティトゥスによる二度目の包囲があった.

四年間

1453年のコンスタンティノープル包囲戦をもって終わる四年間は、黙示録第9章に記されたイスラムに関する「五か月」の預言における第二の四年間を表している.「五か月」の預言における最初の四年間は、1333年から1337年に至るニコメディア包囲戦の期間であった.この包囲戦はまた、1299年7月27日からの三十八年間の終わりを表していた.エルサレムの二度の滅亡、コンスタンティノープルの一度の滅亡、大洪水、そしてニコメディア包囲戦は、紀元前200年から紀元前198年に至るパニウムの戦役を証しする五つの証人であり、その戦役自体が第六の証人に当たるが、ほかにもいくつかの証人がある.

エルサレムの二度の滅亡は、「線に線を重ねて」容易に対応づけることができる.洪水と東ローマの歴史線は、両者に共通するアルファとオメガの死によって対応づけられる.パニウム戦役は、とりわけ紀元前587年のエゼキエルの歴史線と対応づけられるが、それは、どちらの包囲期間も2年間を表しているからである.パニウムはダニエル書11章15節に表されており、この節は、間近に迫る日曜休業令を表す16節に先行しているが、これは紀元前586年および紀元70年のエルサレムの滅亡の場合と同様である.パニウムの戦いとシドン包囲の2年間という期間が、これらの歴史線のそれぞれを、ダニエル書11章40節の隠された歴史へと導き入れる.

しるし

エルサレムが二度にわたって滅ぼされた際の包囲では、いずれの場合も、最初の預言的道標はしるしを表している.66年のケスティウスとエゼキエルの妻の死は、どちらもアルファのしるしであった.レメクもまた最初の道標であり、したがって、二者の証言に基づき、レメクもまたしるしである.彼の777歳という年齢は、預言者、祭司、王という三つの要素から構成される勝利の教会のしるしを表している.

> また、わたしは彼らにわたしの安息日を与え、わたしと彼らとの間のしるしとした.それは、わたしが彼らを聖別する主であることを、彼らが知るためである.エゼキエル書20章12節.

300年

セツの系譜においてアダムから数えて七代目に当たるエノクは、300年にわたって神とともに歩み、天に移された.「300」は、開拓者たちの1843年の図表300枚、それに対応するミラー派の伝道者300人、そしてギデオンの300人の軍勢を象徴する.エノク、ミラー派の伝道者たち、そしてギデオンの300人は、十四万四千人を表している.サムソンは300匹の狐を捕らえ、二匹ずつ結び合わせた.それによって、150という数と、結び合わされて総数が300となる象徴とを示した.

> サムソンは行って三百匹の狐を捕らえ、たいまつを取り、狐の尾と尾を合わせて、二本の尾の間に一本ずつたいまつを取り付けた.そして、たいまつに火をつけると、狐をペリシテ人の刈り入れ前の麦畑に放ち、積み上げられた麦束も、まだ刈られていない麦も、ぶどう畑やオリーブの木々とともに焼き払った.士師記15章4、5節.

ヨハネの黙示録第9章に記された、イスラム教に関する二つの五か月の預言は、「火」と「尾」をイスラム教の特徴として示している.

> そして私は幻の中で、馬とそれに乗る者たちをこのように見た.乗っている者たちは、火の色、青玉の色、硫黄の色の胸当てを着けていた.馬の頭は獅子の頭のようで、その口からは火と煙と硫黄が出ていた.その口から出る火と煙と硫黄、この三つによって、人間の三分の一が殺された.というのも、馬の力はその口と尾にあるからである.その尾は蛇のようで、頭があり、それで害を加えるのである.ヨハネの黙示録9:17-19.

イスラームの力は、彼らの口にも尾にもある.

> また、それらには蠍のような尾があり、その尾には毒針があった.そして、それらには五か月の間、人々を害する力があった.また、それらは自分たちを治める王をいただいていた.その王は底知れぬ淵の御使いで、その名はヘブライ語でアバドンといい、ギリシア語ではアポリュオンという.黙示録9:10、11.

イスラム教がもつ、苦しめ、また殺す力は、彼らの口と尾の双方にあり、その口と尾から発せられる.

> それゆえ、主は一日のうちに、イスラエルから頭と尾、しゅろの枝と葦を断ち切られる.長老と尊ばれる者、それが頭であり、偽りを教える預言者、それが尾である.この民を導く者たちが民を迷わせ、彼らに導かれる者たちは滅ぼされるからである.イザ

ヤ書 9:14-16.

イスラムとイスラエルは、ともにアブラハムの子孫であるため、預言上のつながりを持ち、それぞれの系統において、「頭」は「長老で尊ばれる者」であり、「尾」は「偽りを教える預言者」である. イスラムにおいて、偽りを教えた古代の預言者はムハンマドである. コーランはイスラムのいなごを駆り立てる偽りを表し、「長老で尊ばれる者」は彼らの政治的指導層である. イスラムは国家統治術（口）によって導かれており、その担い手たちはコーランの偽り（尾）によって動機づけられている. サムソンの三百匹の狐は、五か月ずつの二つの群れに分けられ、火と煙と硫黄によって苦しめ、殺すことになっている.

火と煙と硫黄

火、煙、硫黄は、三天使の預言的特徴を帯びている. 最初と最後のものは、いずれも火の形態である. 「硫黄」の語根は、神的な閃光を表している. 火はメッセージの象徴であり、煙はそのメッセージがもたらす結果であり、硫黄はそれが宗教的なメッセージであることを示している. これら三つはすべて、黙示録十四章の三天使の真のメッセージを模した偽物である. 鉄の胸当ては、火、ヒヤシンス石、硫黄として表されている. それは大祭司の胸当てを模した偽物である. 大祭司の胸当ては、十四万四千人を、人間という十二の宝石として表しており、それらの宝石は、ウリムとトンミムによって表される神性と結び合わされている. 古代のヒヤシンス石は、濃い青黒色、あるいはくすんだ紫色であった. イスラームの胸当てのヒヤシンス石は、イスラームの口（国家）と尾（教会）から出る煙に対応している.

エノクが神と共に300年間歩んだ後に天に移されたことは、300という数を、1798年に到来した第一の天使のメッセージと関連づけている. その第一の天使のメッセージは、ヨハネの黙示録第9章にある5か月の預言が成就した1840年8月11日に、力を与えられた. この章にある二つの5か月の期間は、線に線を重ねることによって結び合わされている. 第5節の5か月と第10節の5か月が、それぞれ150年からなる二つの別個の期間であると理解されたのは、ごく最近のことである. その真理が認識されたとき、サムソンは狐を二匹ずつつなぎ合わせて150組にした.

サムソン（その名は「太陽」を意味する）の預言的歴史において、ニネベの戦いによって表された鍵が用いられたとき、底知れぬ穴から出た「煙」が太陽を闇で覆い隠した. ミラー派の人々は、イスラムの底知れぬ穴から出た煙が太陽を覆い隠すことを、太陽（サムソン）によって表されるキリストの福音が覆い隠されることとして、正しく理解していた. サムソンの証しと、黙示録第九章から第十一章に描かれるイスラムとの間には、ほかにもいくつかの関連がある.

サムソンの物語には、婚宴の客たちが謎を解くことになっていた三日間という形で、三という数が現れる. サムソンは、ティムナ出身の妻、遊女、そしてデリラという三人の女性と関わる. 主の霊は、獅子と対峙したとき、アシュケロンで、そしてレヒで、三度サムソンに臨む. サムソンはデリラに真実を告げる前に、三度偽りの答えを与える. 三という数は神格を表すとともに、竜、獣、偽預言者から成る偽りの神格、さらには勝利の教会の三重の構成をも表している.

三十は祭司を表す数であり、サムソンの婚宴には三十人の仲間が連れて来られた. そこでサムソンは、客たちが謎を解くことができれば、亜麻布の着物三十着と衣服三十着を差し出すと賭けた. 裏切りによってその謎の答えが漏らされると、サムソンは賭けの約束を果たすために、アシュケロンの男三十人を殺した. 三十という数は三百の預言的な十分の一である. そして、エノクが三百年間神とともに歩んだことと対応して、サムソンが捕らえ、二匹ずつ結び合わせて百五十組にした三百匹の狐は、「規則に規則を重ねる」という方法論によって互いに結び合わされる、ヨハネの黙示録九章に記された五か月についての二つの預言と結びついている. 三百は三千の預言的な十分の一であり、三千は残りの民を表す. それは、五旬節に回心した者たちに表される義なる残りの民であっても、金の子牛をめぐる反逆の際にレビ人によって殺された者たちに表される不義なる残りの民であっても同じである.

金の子牛をめぐる反逆と五旬節に回心した者たちは、ともに、間もなく制定される日曜休業令の時点で預言的に重なり合う. 一つの残りの民は、神の契約の民の中からの残りの民と、神の契約の民の囲いの外にいる者たちの中からの残りの民とを表している. サムソンの証しにおいて最初に言及される三千人は、ペリシテ人をなだめるためにサムソンを捕らえたユダヤ人であり、二度目に言及される三千人はペリシテ人である. 裁きは神の家から始まり、その後、なおバビロンにいる第十一時の働き人たちに及ぶ. サムソンの証しは、残りの民を表す三千人という象徴を裏づけるとともに、裁きの過程の順序をも裏づけている. エノクは三百年にわたって神とともに歩み、それによって、死を味わうことのない、神の契約の民の残りの民を表している. その残りの民こそ、黙示録第七章において大群衆と対比されている十四万四千人である.

300の十分の一は30であり、これは祭司の象徴である. さらに、30の十分の一である3という数は、神格を表すとともに、竜、獣、偽預言者から成る偽りの神格をも表している. 3はまた、勝利の教会の三つの区分をも表している. これらの区分は、30歳で統治を始めたダビデ王、30歳で奉仕を始めた祭司ヨセフ、そして第17ヨベル周期の30年目に22年間にわたる奉仕を始めた、預言者であり祭司でもあるエゼキエルによって表されている. 祭司である彼は、30歳であったはずである.

預言者、祭司、王として表される三つの象徴的存在は、それぞれ、包囲の開始を示す道標において、第七日安息日という神の印を受ける. 死に関する二つの証しは、西暦66年のエルサレムの滅亡という副次的な証しとともに、包囲の道標が「しるし」であることを示す三つの証しとなる.

移行の道標

包囲が始まると、レメクによって象徴される神の三重の勝利の教会に印が押される. エゼキエルの妻の死は、まさにその同じ道標において、それまでの契約の民が完全に退けられることを示している. この道標はラオディキアからフィラデルフィアへの移行を示しており、その移行は、戦闘の教会が勝利の教会へと移行し、こうして七つの教会に属する第八の教会となることとしても描かれている. 1844年10月22日から1863年の反逆まで続いた、第三の天使に関わるミラー派の歴史において、その道標は、ジェームズ・ホワイトとエレン・ホワイトの両者がその運動をラオディキア的なものと認め始めた1856年とい

う時期を表していた.1856年、フィラデルフィア的なミラー派運動は、ラオディキア的なミラー派運動へと移行した.その七年後、その運動がラオディキア的なセブンスデー・アドベンチスト教会となったことにより、ラオディキア的なミラー派運動は終わりを迎えた.

その道標はまた、スミルナの教会が終わり、ペルガモの教会が始まった313年によっても予表されている.これらを併せて見ると、義なるフィラデルフィヤから不義なるラオデキヤへの1856年の移行は、義なるスミルナから不義なるペルガモへの313年の移行と対応しており、その移行点はまた、この道標がしるしであることを示している.包囲は、複数の証人による証言に基づき、しるしをもって始まる.十四万四千人から成る第三の天使の運動がレメクの死の時に印を押されるとき、彼らは旗印として高く掲げられるとともに、印を押され、完全に一つとされるのであり、それは、包囲の預言的構造における最初の道標がしるしだからである.

ヨハネス・パレオロゴスの死は、イスラムの道標、すなわち東ローマがイスラムへの服従を強いられる時点を特定するものである.エルサレムの包囲と滅亡は、バビロンとローマに関する二つの証しを与えている.エゼキエルの一年半という期間は、北の王の捕囚とされるという警告のメッセージを見ることも聞くことも拒んだラオディキアの人々を表している.ケスティウスのしるしは、北の王から逃れるフィラデルフィアの人々を表している.これら二つのしるしは、内的な預言のメッセージを扱っており、ラメクの777も同様である.線に線を重ねると、一方の集団は包囲の際に捕囚となり、もう一方の集団は北の王の手から逃れる.

ヨハネス・パレオロゴスの死は、レメクによって表される人々が証印を受ける道標におけるイスラームの役割を明らかにすることによって、外的な預言のメッセージを表している.エルサレムの包囲と滅亡の際に逃れる者たちと捕らえられる者たちは、品性が現れるのは、包囲の預言的期間におけるアルファの道標においてであることを強調している.この二つの集団は、二人のレメクによって表されている.一方の集団はナッシュビルに警告を発し、もう一方の集団は警告を発することを拒む.

> 主は彼に言われた.「それゆえ、カインを殺す者はだれであれ、七倍の復讐を受ける.」そして主は、カインを見つけた者が彼を殺すことのないように、カインにしるしを付けられた.創世記4:15.

反逆の刻印

カインは、自らの反逆を示すしるしを受けた.その反逆のしるしは、カインを殺す者は神による七倍の裁きを受けるという、人類への警告として理解されていた.ある意味では、このしるしは神がカインを保護するために与えたものと理解できるが、預言的には、聖書の最後の書に記された、反逆に関する警告のしるしと対応している.オメガの書である黙示録に記された獣の刻印は、アルファの書である創世記に記されたカインの反逆のしるしによって、予型的に示されていた.カインのしるしに込められた警告は、カインと同じ品性を示す者は誰であれ、同じく神に退けられ、裁かれるということである.カインにつけられたしるしは獣の刻印と対応しており、その警告は、兄弟を殺すというカインの反逆を模倣してはならないとの命令を強調しているが、それは黙示録では獣の像として

表されている.カインの行為を模倣することは、カインの像を形づくることである.カインには七倍の刑罰を執行するという裁きが下され、カインから数えて六代目のレメクは、自分が父の罪を繰り返したこと、しかし自分に下される裁きは七十の七倍になることを認めた.

> そしてレメクは妻たちに言った.「アダとツィラよ、わたしの声を聞け.レメクの妻たちよ、わたしの言葉に耳を傾けよ.わたしは、わたしに傷を負わせた男を殺し、わたしを打った若者を殺した.カインのための復讐が七倍なら、まことにレメクのためには七十七倍だ.」創世記4章23、24節.

前節は、神の御言葉において数が乗算の形で示される、わずか三つの例のうち最初のものである.最後の例も最初の例と同様である.

> そのとき、ペテロがイエスのもとに来て言った.「主よ、私の兄弟が私に対して罪を犯したとき、私は何度まで赦すべきでしょうか.七度までですか.」イエスは彼に言われた.「あなたに言います.七度までではなく、七度の七十倍までです.」マタイ18:21、22.

70の7倍は490であり、聖なる歴史には490年にわたる期間が三つあり、その一つひとつが恩恵期間を表している.聖所、王たち、軍勢について、それぞれ490年という期間が示されている.王たちに関する期間は、紀元前1097年にサウルが油を注がれた時に始まり、ダニエルが捕囚となった紀元前607年のネブカドネツァルによる最初の包囲まで続いた.

聖所に割り当てられた490年の猶予期間は、紀元前1006年のソロモン神殿の奉献に始まり、紀元前516年の捕囚後の神殿の奉献まで続いた.軍勢に対する490年は、紀元前457年から紀元34年までであった.

カインの七倍の裁きを警告する告知としるしに始まり、レメクの七の七十倍に至るまでの展開は、象徴的な四百九十年の猶予期間を表している.カインのしるしが象徴する反逆は、次第に激化していくものとして描かれており、それは神が洪水をもたらされた動機と符合している.

> 神は、人の悪が地上にはびこり、その心に思い計ることがすべて、絶えず悪いことばかりであるのをご覧になった.主は、地上に人を造ったことを悔やみ、心を痛められた.そして主は言われた.「わたしが創造した人を、地の面から滅ぼし去ろう.人も、獣も、地を這うものも、空の鳥も.わたしは、それらを造ったことを悔やむからである.」創世記 6:5-7.

カインの系統の第六代に当たるレメクは、セトの系統のレメクとは対照的に、しるしを帯びた反逆者の一群として示されている.両レメクの証しは、いずれも恩恵期間の終結を指し示している.一方は490という数の表現によって、他方はその死によってである.いずれにも、勝利の教会の三重の構成と直接結びついた数的象徴が含まれている.カインのレメクは、王たち、聖所、軍勢に関わる三つの490年の期間に対応しており、セトのレメクには、預言者、祭司、王に関わる七の印が含まれている.セトのレメクは黙示録14章の三人の御使いのうち第二の御使いであり、カインのレメクは、獣、その像、刻印、そしてその名の数についての警告を伝える第三の御使いである.黙示録14章9/11節は、カインの

呪いを受ける者たちを明らかにしている.

> 第三の御使いが彼らに続き、大声で言った.「だれでも、獣とその像を拝み、その刻印を額か手に受けるなら、その者は、神の憤りの杯に薄めずに注がれた神の怒りのぶどう酒を飲むことになる.そして、聖なる御使いたちの前と小羊の前で、火と硫黄によって苦しめられる.彼らの苦しみの煙は、世々限りなく立ち上る.獣とその像を拝む者、またその名の刻印を受ける者はだれでも、昼も夜も休みを得ることがない.」ヨハネの黙示録14:9-11.

黙示録15:2は、セツの系統のレメクによって表される人々が誰であるかを明らかにしている：

> また私は、火の混じったガラスの海のようなものを見た.そして、獣とその像とその刻印とその名の数字とに打ち勝った者たちが、神の竪琴を手に、そのガラスの海の上に立っているのを見た.ヨハネの黙示録15章2節.

セツの系統のレメクは、その死によって、戸が閉ざされることを示している.カインの系統のレメクは、四百九十年という猶予期間によって、戸が閉ざされることを示している.カインのしるしは、預言上の三つの主要な特徴を示す品性に対する警告と見なされるべきものであった.彼は、神の指示に従って神への礼拝に加わることを拒んだ.また、嫉妬に駆られて激怒し、弟を殺害した.そして第三に、悔い改めることを拒んだ.

カインは、人間と神との関係を示す十戒の第一の石板に記された戒めを破っていた.一方、第二の石板は、人間同士の関係を示している.彼の反逆のしるしは、彼が悔い改めることなく律法に背く者であることを示していた.カインとレメクは、間もなく到来する日曜休業令の時に、第三の天使の戸が閉ざされることを示している.エノク、メトセラ、レメク、ノアは、エノクに象徴される第一の天使の到来に始まる歴史を表している.そこには、第二の天使としてのレメクの到来、レメクによる第二の天使のメッセージに力を与える真夜中の叫びとしてのメトセラの到来が続き、次いで、第三の天使としてのノアが、洪水の時に戸が閉ざされることを示している.

レメクは洪水の5年前に死んでおり、その死は、間もなく到来する日曜休業令の際に戸が閉ざされる、その象徴的な5年前を指し示している.勝利の教会に印を押す働きが完了するのは、レメクが777歳で死んだ時点なのである.その後、箱舟の戸が超自然的な力によって閉ざされる7日前に、動物たちが箱舟に入り始めた.

メトシェラが死んだ日は、その七日間の最初の日であった.扉が閉ざされる前の最後の警告は、動物たちの姿を見せることと、これまでに死を迎えた人の中で最も長寿であった人物の生涯を通じて告げられ続けてきた預言の成就とが相伴う、二重のメッセージであった.その預言はメトシェラという名に込められており、その名は「彼が死ぬとき、それは来る」を意味する.

人類に対する最後の警告のメッセージは、預言上の必然性から、二重のメッセージでなければならない.それは、エノクがその息子の名を通して告げた預言の成就として、メトセラの死とともに始まった七日間にわたる動物たちの移動によって表されている.この七日間にわたる動物たちの移動は、メトセラの死と移動する動物たちから成る二重のメッ

セージが、第三天使の証印のメッセージであることを示している. イエスは常に、初めによって終わりを示される. そして黙示録では、真夜中の叫びが第二天使のメッセージに加わったのと同じように、黙示録18章の第三天使に、4節の第二の声が加わる. 最後の警告のメッセージは、黙示録における諸教会と封印との預言的な関係に表されているように、常に内部と外部に向けたメッセージとして提示される. ダニエル書11章における最後の警告のメッセージは、北と東のメッセージである. メトセラと移動する動物たちは、ノアの時代における二重の最後の警告のメッセージであった.

777というしるしを伴うレメクの死は、エゼキエルの妻が死んだ包囲の開始時と対応している. その時点で、セツの系譜によって表される忠実な者たちに印が押され、また、カインの系譜によって表される者たちが刻印を受けるのも、その時点である. エノクはアダムから七代目であり、ある期間におけるアルファの道標を表している. その期間の終わりには、最後の世代と最初の世代の双方が八という数で表される. 二人のレメクはいずれも恩恵期間の終結を指し示しており、レメクの死は、包囲の開始時に恩恵期間の戸が閉ざされていることを表している.

エノクは預言的歴史のアルファであり、預言上の必然性から、預言的歴史のオメガを指し示さなければならない. そのオメガは、死を味わうことなく古い世界から新しい世界へと移った八人の者によって表されている. エノクとその八人は、新しい地に到達する前に死を見ることはなかった. 古い世界は、動物たちが移動した七日間のうちに終わりを迎え、新しい世界は、雨の降らない七日間をもって始まった. その後、十七日目から五か月間、その五か月が終わる十七日目に神が雨をとどめられるまで、ただ雨が降り続いた.

五か月

ヨハネの黙示録第9章には、5か月という期間について二つの証言があり、同章には三つの異なる期間預言がある. 最初の5か月は第5節に、二番目の5か月は第10節に示されており、391年と15日は第15節に記されている. 第5節、第10節、第15節は、預言期間の初めにある5か月についての二つの証言によって、イスラームに関する期間預言を特定している. 第5節と第10節はいずれも5か月という期間を示しているので、行に行を重ねると、第5節と第10節を足して15となる. したがって、最初の5か月は15であり、391年と15日は第15節に示されている. 第5節、第10節、第15節の順序と構造は二つの15を示しており、合わせて15となる最初の二つの節には、150年の期間預言が二つある.

第十五節は、三百九十一年と十五日という期間の預言を示している. キリストは三つの節に十五という数を織り込まれ、まさにそれらの節の中に示された預言上の期間を用いて、第五節と第十節を足すことで表される15という数を区別し、それを第十五節と対応させることで十五が二重になるようにされた. そしてキリストは、相互に結びついた三つの預言すべてを、十五日をもって締めくくられた.

本章を解く鍵は、627年のニネベの戦いと、その5年後の632年に起こり、最初の5か月間の預言の起点となるムハンマドの死にある. ムハンマドの死から10年後、ペルシアの軍勢は壊滅した. これは、ペルシアとローマという二つの勢力がともに敗北するというムハンマドの予言と一致していた. したがって、黙示録第9章の歴史の流れは、ペルシアとローマとの間で行われたニネベの戦いから始まる. その5年後にムハンマドが死去し、こうし

て第5節の150年間が始まる. さらに10年後、ペルシアは642年のニハーヴァンドの戦いで敗北する. イスラムでは、ニハーヴァンドの戦いは「勝利の中の勝利」と呼ばれた. 黙示録第9章の最初の15年間は、5年間とそれに続く10年間からなる期間を表している. 最後の期間預言は、1840年8月11日に終結した. その出来事の10日前、ジョサイア・リッチは、オスマン帝国の覇権の終焉に関する予測を改訂して公表した. 黙示録第9章におけるイスラムの最後の15日間は、ジョサイア・リッチの働きによって、5日間とそれに続く10日間とに分けられる. イエスは常に、初めをもって終わりを示すからである.

これらの事柄については、次の記事で引き続き取り上げます.